

建設産業委員会会議録

平成24年7月23日(月)

午前9時30分 開会

○山本半治委員長

ただいまから建設産業委員会を開会します。協議題は、閉会中の調査事項の中で、今日は知多南部卸売市場株式会社について、当局から説明をいただきたいと思います。前もって皆様に資料をお渡しして、勉強してきていただいていると思いますけれども、行政の方からお話をいただきまして、今後活かしていきたいと思いますので、よろしくお願いたします。それでは、当局の説明を求めます。

○伊藤浩卓農務課長

【資料に基づき説明】

○新美保博委員

この資料が、数字の整合性がないところがたくさんある。それを直してもらいたいというのが1点。それから、これを聞いて現状はこんなところかなと思うんですが、だから何かということが聞きたい。当局は何を考えているの。例えば、決算実績があったんだけど、決算実績を見て、だから今からどうしたいのか。3番の資料だけど、これから何を不得、何をしようとしているのかというところを。過去の放漫経営も甚だしいよね。一番最初の昭和60年にマイナスが出ているんだから。マイナスからスタートでしょ。それを二十何年、何も手を打ってなかったわけだ。その責任を、あれがいかん、これがいかんと言ったところで始まらないわけだから、これをどうしていくのということが聞きたいわけ。ズバリ言えば、今どういった経営というか、今の状況がこういう状況、これをクリアするにはこうしなきゃいけない。そのための今暫定期間なのか、そういうところの見解というか考え方の話をしてもらった方がいい気がする。申し訳ないけど、このペーパーを見れば言うことはわかる。そうじゃなくて、ここから何が生まれてきてるっていうことをもうちょっと聞きたい。今からやることは、そういうところにあると思う。そこらを整理して話をしてもらいたいと思います。

○近藤恭行市民経済部長

今の状況の中で、明確にお答えできない部分があるというのは、ご容赦いただきたいと思いますが、おっしゃるとりでこの課長の説明の中にもありましたけど、テナントとして空いているところが8つある。これをなんとか埋めるということを今までやってきたかと言いますと、私たちが知る限りだと積極的にここへ入ってきていただくような発想はしてきてないと思います。他の市場と比べて使用料が高いというのがその理由の1つとしてあって、なかなかここに入ってきていただくための営業活動ができなかったのかなと想像はしていますが、それにしても今の状況を続けていけば、どんどん知多南部卸売市場株式会社の売上が落ちてくるわけになりますので、さらにこの先経営が厳しくなる可能性がありますので、この部分に関しては、誘致活動みたいなものは必ず必要になると思いますし、これをやっていかなければならないというふうに考えています。それから今回当初予算を認めていただいて、予算どおりの増資をはかったわけですが、先日の全員協議会でも申し上げましたように、知多総合卸売市場の方が予定の金額まで増資をはかってい

ただけなかった。四千数百万円不足した状態にございます。このUFJのシナリオでいくと、残りの借入金が概ね2億円にしようということで、やってきていますけども、実質今3億円という借入金が残っています。ただ、今まで長期借入金、毎年2,370万円ずつ返済をしてきていますが、今の3億円を、まだ今短期借入金のままですけど、ある時点で長期借入金に借り換えることになろうかと思えますけども、短期借入金を長期借入金に借り換えをしたときに、このことの決定ではありませんので、あくまでも事務サイドとして、こんなことはどうかなたと思っているということでご承知置きをいただきたいと思っておりますけども、3億円の償還期間20年ですので、年間でいきますと、1,500万円に落としたいなど、2,370万円から1,500万円に落ちますので、その部分でも若干経営が楽になるのかなど。

○中川健一委員

ちょっと今、長期借入金にして、1,500万円にするなら返済できるというようなことをおっしゃってると思いますが、それは何に裏付けをして、例えば減価償却費がいくらあるとかですね、それどういう基準でおっしゃっているのでしょうか。

○近藤恭行市民経済部長

今の1,500万円と申しましたのは、現在借入をしているのがJA、農協から借り入れをしているわけですけど、この借入金の償還期間が、30年でも50年でもいいかと言いますと、協議の中では最長20年であろうというふうにお聞きをしております。その最長の20年間で割った時に、1年間1,500万円になるということで、1,500万円になると申し上げております。借入金の残高は、3億円ちょうどです。3億円を20年間で割ると1,500万円ということです。

○中川健一委員

それは事業やっている借入金の考え方とは全然反対の発想で、返せる見込みはそれであるわけですかね。何を根拠に1,500万円なら20年間毎年出せると言っているのか、例えば担保がある。あるいは売上がこれくらいあるから返せる見込みがあると。それがないと、借りてるのが3億円だから20年で割ったら1,500万円。そんなばかな返済計画はないわけで、そこの担保どうなってますか。

○山本半治委員長

しばらく休憩します。

午前10時20分 休憩

午前10時22分 再開

○山本半治委員長

委員会を再開します。

○近藤恭行市民経済部長

これは当初予算のときにご説明を申し上げますけども、北側部分の土地を有効活用したいというのがあります。売却してしまうというのも1つの方法であると思えますし、上手に借りていただける企業が出てれば、そこへお貸しをするというのも1つの考え方であると思えますが、いずれにしても北側部分の土地の有効活用を図っていきたい。その北側部分の土地、1万4,600平方メートルくらいの土地がございますけども、ここの土地の有効活用をしてまいりたいと。場所としましては、一番上に加工施設棟というのがござ

いますけれども、加工施設等の下に駐車場がずっとありまして、その下に通路があつて、その下に車両が斜めに駐車できるスペースみたいなものが見えると思いますけど、この道路から北側部分、上の部分を有効活用したいというふうに考えています。加工施設等を含みます。

○山本半治委員長

しばらく休憩します。

午前10時24分 休憩

午前10時32分 再開

○山本半治委員長

再開をします。ただいま配布した資料の説明をお願いします。

○伊藤浩卓農務課長

今配布しました図面で、先ほどの話の、北側部分は4番の部分になります。それから、他市町へ譲渡する土地につきましては、9番。その他の土地の説明をしますと、1番は、土地としては、あいち用水土地改良区の土地になります。1番、2番、3番につきましては、市道の用地となります。1番は借地になりまして、2番は以前に南部市場の中に市道がありまして、その部分と、2番の部分と交換します。同面積で交換します。3番につきましては、市道として南部市場から寄付をします。先ほど言いました、4番というのが今後の土地の活用を考える場所です。5番は、このまま駐車場として利用予定しています。6番は、この図面にありますように、果実本舗のカット工場がありますので、この部分はそのまま残します。7番は本体です。南部市場の建物等がある場所になります。8番は、汚水処理場とかになりますので、このまま残します。

○山本半治委員長

道路は、実際は南からは入れないようになっているよね。

○伊藤浩卓農務課長

南からですと、3番のちょうど下ですね。ここまで市道になってますので、突き抜ける感じになります。

○山本半治委員長

そうだけど、実際は入れないようになっているでしょ。それを入れるようにするっていうこと。

○伊藤浩卓農務課長

今は、左に曲がって入るようになっているんですが、もともと3番のところに道がありまして、今は使っていないですけど、それを活用して市道にします。

○山本半治委員長

この道は有効に使っていくっていうことだね。

○伊藤浩卓農務課長

はい。

○中川健一委員

有効に使うっていう意味がわからないんですけど。

○伊藤浩卓農務課長

有効に使うかっていうか、ここに市道を作るっていうことです。市道として北に抜ける

道を作るということです。

○山本半治委員長

いままで中通らないと、高速道路の方に出れないもんだから、勝手に中には入れないもんね。それを通れるようにして、整備するということだね。

○中川健一委員

1番、3番のところは、半田市がお金を出して作るっていうことですよ。

○近藤恭行市民経済部長

その通りです。半田市がお金を出して市民の利便性向上のために市道として整備します。

○中川健一委員

僕はこんな計画はどうせ失敗するからやめた方がいいと思いますけど、ちょっとよくわからないのは、さっきの借入金のところですね。何を根拠に年間1,500万円の20年間なら返済できるというふうに考えているのかということがないと、借金ありきであれば、これ返せなければどうせ税金投じるなりということになるわけですので、何を根拠に1,500万円なら返せると考えているのでしょうか。

○近藤恭行市民経済部長

まず知多総合卸売市場さんが、出していただけるかいただけないかわからない状態ですので、想定としてひょっとすると出していただけない状況も想定しなければいけないという話の中で、今現在先ほどちょっとお話をしようと思ったんですが、1億7,975万円の今回出資の中で、長期借入金、短期借入金の償還に1億3,485万円、ちょっと数字細かくて申し訳ありませんけど、概ね1億3,000万円償還をしたというふうになっております。今年度末のキャッシュフローの想定なんですが、7,000万円を超えるくらいのキャッシュフローで余裕ができる状況になります。その1,500万円にきちとした根拠をもっているわけではなくて、先ほど申し上げましたように、3億円を20年で割ると1,500万円になるというのが、その理由でありまして、その1,500万円で借入金を返していきますと今年度のキャッシュフローがしばらく楽にまわる状況が想定されます。ですので、キャッシュフロー上楽にまわっている段階で次の手を打ちたい。テナントに入店してもらい。あるいはその周りの土地の有効活用をはかる。こうした形で経営改善をはかっていきたい。そのために所管としては、3億円を10年で返す、15年で返す想定もあろうかと思いますが、極力キャッシュフローの部分を楽に回すために最長の期間で設定をしておく。その金額で1,500万円だということです。

○中川健一委員

長期借入金3億円の予定だということですが、それ以外の借り入れはしないということでしょうか。

○近藤恭行市民経済部長

今も申し上げましたが、今年度末で7,000万円を超えるくらいのキャッシュフローになると思いますので、今借入金を起こす必要というのはないというふうに判断をしています。

○中川健一委員

その場合の利息というのは、年間いくらくらいを想定しているのでしょうか。

○近藤恭行市民経済部長

おおむね500万円前後を想定しています。ただ、これは今現在の借入利息で算定をして

いますので、実際に短期借入金から長期借入金に借り換えをする段階で、再度JAとも協議いたしますし、場合によっては民間金融機関からの借り入れというのも想定して、協議をしたいな、交渉したいなというふうに思っています。

○中川健一委員

キャッシュフローとか言うと、なかなか議員もキャッシュフロー表が読める人もそんなにいるのかわからないくらいなので、あまり言ってもしょうがないんじゃないかなと思いますが、もう1つこういう半田市が100%債務保証している場合は、資金ショートしたって、短期借入すれば済む話なので、あまり手持ちのキャッシュフローが常に持ってないといけないってのは、あんま関係ない話なんです。関係ないんです。部長はたぶんあまりご存知ないと思いますが、現金を借りれない人たちはキャッシュフローが大切なんですけど、半田市みたいに借りれる立場なら、足りなきゃその都度借りればいいので、財務表上の黒字倒産なんて実質的にはありえないわけですね。それはそれで言うておいた上で、今の部長の話が本当に危ういっていうのは、ちょっとこれみなさん、3ページの表を見てもらえばわかるんですけど、例えば平成23年度の損益計算書を見ると、とりあえずポイントが、借入金の利息が751万円になっているんですね。営業外費用が。これが長期借入金になると、もうちょっと利息が上がるわけですよ。それがどれくらいか、ちょっと、1割か2割くらい上がるわけなんです。これが2割上がったとしたら、800万円ちょっとになっちゃいますよね。するとこれ、したがって純利益のところ、今約270万円あるところが100万円ちょっとになっちゃうわけなんです。それが今年の売り上げを維持することができれば、20年間毎年その金額っていうのは払い続けられるかもしれないけども、ちなみに借入の残金は、減価償却費ってところの約2,000万円と純利益の約270万円の合計約2,200万円ですけど、これが借入金の元本の返済の原資になるわけなんです。という、逆に言うと、設備投資をするお金が無くなってしまいうんですよ。実際修理をしなければいけないとか、本来設備投資をしないといけないんですけど、通常設備投資というのは、減価償却費と純利益の中から出していくわけなんです。そういう問題もあって、なかなか部長が言っている意見は僕は、現実的にほんと難しいんじゃないかなと思いますけども、それが20年間の話なんです。やれるのかってことを考えると、僕はちょっとそれは不可能に近いんじゃないかなと思うんですけど、そんな20年先まで、途中で大規模修繕も発生するわけですから、そうなるとそのお金はどこから工面するんだということもありますので、その辺はどうお考えなのでしょうか。

○近藤恭行市民経済部長

1つ今の利息の支払いなんですけど、これは今の3ページの表なんですけど、下から3段目に4億2,300万円っていう短期借入金残高があって、これに伴って発生した利息が、今おっしゃったように、トータルで751万4,000円という形になっておりますので、それが今3億円にまで圧縮してますので、金額は先ほど申しあげましたように、概ね500万円前後でおさまると思っております。それから、じゃあ1,500万円ずつ20年償還していくんだから、20年安心かというふうなことは、申しあげているつもりはなくて、とりあえず一時、経営が楽というわけではないですが、若干まわりやすくなるという状況ができますので、この間に先ほど申しあげましたように、テナントを増やす、土地の有効活用を図る。こうしたことで、特にこの債務が一番経営を圧迫していますので、債務の償還をはかりたいと

いうふうに考えています。

○中川健一委員

結局ですね、息をつくっていうところが、息をついていただくのは結構なんですけども、あまり言ってもしょうがないことですが、この売上を、昭和 61 年から見ると下落基調で、おまけに取扱高も施設使用料も減っている中で、新しくどうやって売上を増やすんだという算段を作らない限りは現在の収益構造の中でやっても、今のコストを売上が下がるにしたがって、減らしていかない限りは継続できないわけですね。売上に従って、人件費とかすべてのコストを削減していけば、それはそれでも必要な事業は必要な事業だと思いますので、そういう方法もいいと思いますけども、現実的にコスト削減もかなり限界に近付いてきていると、今後継続的に運営していこうと思うと、売上を上げるということ、こうやってやるということが、具体的に出てこない限りは、結局のところ半田市が最後は税金で救済する。あるいは処分するということにならざるを得ないことは、明白なものですから、具体的にこういう事業でおおむねこれくらいの売り上げをあげる、下がってきている部分の 1,000 万円くらいはこれでカバーできるというようなきちとした事業計画をちょっと作ってみたいことには難しいと思いますけど、そこらはできるもんなんじゃないでしょうか。

○近藤恭行市民経済部長

ご指摘いただきましたように、そもそも今の市場取引の流れの中で、今後こうした地方卸売市場がずっと安定的な売上を続けていけるという状況があるというふうには考えておりません。じゃあどうするんだという話の中で、売上の減少に伴って当然コストの削減をはかってきているわけですが、ご指摘いただいたようにコストの削減も限界に近付いてきております。その中に 1 番削減できる可能性のあるのが、債務の償還。債務を軽減することで、経営には有効に働くであろうと思っていますので、特に卸売市場の取扱高、知多総合がやっている部分に関しての売り上げの上昇がどの程度見込めるかというのと、そう見込められるわけではないと思っていますので、今空いているテナントに関しては、魅力的な使用料形態になれば入っていただけたところはあろうと思うんです。そういった部分では、是非とも誘致活動をやってみたいなど。本来これ半田市の職員が、やるやると言っていてはいけない話で、知多南部総合卸売市場としてやるべき事業活動だと思いますけども、コスト削減の中に市場長として市役所の職員 O B が 1 人と、それから臨時職員的な女性が 1 人いるだけで、なかなかその営業活動もできない状況ですので、構成している私たちまで含めてなんとかテナントに入っていただくことを検討していきたいというふうに思います。

○中川健一委員

まず部長の発想がちょっと、債務負担が減ることによって経営が身軽になるっていうのは、別に知多南部卸売市場が独自にやっていることではなくて、我々の税金でやっていることであって、身銭を切ってこの人たちの救済をしているわけですよ。だから、それは、申し訳ないけども、自立的な活動ではないので、救済ですね、単なる。そんなことをここで、のうのうとそれが将来の見通しの第 1 歩ですって言われても、ぜんぜん自立した活動じゃないので、そこはちょっと考え方を、発想がおかしいということを改めてもらわないと、部長がそういう発想、市長もそういう発想なんじゃないかと。そういうことやっているから、すべてが空回りして、自立できないようになっちゃったと僕は思うので、一番

いい例が、平成5年にそういうことやって、結局だめだったわけですよ、はっきり言うと。だから今回も僕はそういう発想がある限り二の舞になっちゃうので、そういう考えはやめてほしいということですね。後段のテナントが入れば売上が上がる。それはそうだと思いますけども、具体的にどれくらい空きテナントを埋めることによって、年間売上があるというふうに考えているのか。そこらはいかがでしょうか。

○近藤恭行市民経済部長

まず先のご指摘ですけども、債務を償還するために今後も税金を投入しようとは考えておりません。今回は税金を投入させていただきましたし。

○中川健一委員

そう言いますが、市長はもう税金出さないって言ったんですよ、そういうことについては。救済することはないっていうことを、2年か3年くらい前から言っているけども今回やっぱりやっているわけなんで、この辺のつじつまはどういうふうに責任とってくれるんですか。

【発言する者あり】

○中川健一委員

今の件は、非常に重要なので調べて、もう1回報告させていただきます。

○近藤恭行市民経済部長

今テナントが概ね80万円。1テナントをご利用いただきますと、年間で80万円を超えるくらいの金額をお支払いいただいているので、具体的に2テナント入れれば、3テナント入れれば改善されますよということまでは申し上げられませんが、なるべく多くのテナントを誘致することで間違いなくこの部分では経営の改善につながると思っておりますので、そうした努力をしたいなと思います。

○中川健一委員

今空いているのは、8テナントですかね。そうすると年間80万円の売り上げがあるとして、8テナント入ったところで640万円なわけですね。売上に640万円が追加されると。じゃあこの640万円売上が増えれば、継続的に経営改善がやっていけるかと、その検証をまずしないといけないと思うんですね。それでも、まったく設備投資をしないんならば、8テナント入って、80万円ずつ入れれば多少持続的な経費があるかもしれませんが、少なからず修繕をやるとか、またお金を使うとなると、これだけではとても難しいんじゃないかと思いますが、ここらの計算っていうのは、されているんでしょうか。

○近藤恭行市民経済部長

おっしゃるように640万円の売り上げアップになりますので、その部分で大きく経営改善に寄与できると思っております。ただ、こうしたことの積み重ねが、大きいのかなというふうには思っておりますし、根本的な部分でいくと何回も申し上げますけど、債務の償還が大きいと思っておりますので、この債務をとにかく減らしたい。その債務を減らす手段としての、先ほどの土地の有効活用、売却といったことを考えていますので、これが売却できることによって、債務が大きく圧縮できると考えています。それから、たびたびご指摘をいただいておりますけど、確かに今施設がかなり老朽化してきてまして、近々大規模な修繕をはからなければいけないと考えています。参考ですけど、見積もりを取った限りは、少なくとも5,000万円を超えるくらいの修繕が必要だという見積もりも出

てきていますので、それをそのまま実施ができるとは考えておりませんが、一定の修繕は必要であると考えています。その一定の修繕も、今のキャッシュフローの中で、必要最小限のものはやっていかなければならないと思っています。

○中川健一委員

確認ですが、そのテナントを増やすことが事業のとりあえずの柱であると。てっとりばやいところで。それが全部埋まったところで、640万円の売り上げ増ということで、一方で毎年1,500万円、長期借入金を返さなければいけないし、500万円くらいの利息を払わないといけない。一方で大規模修繕も5,000万円くらいの概略ですよ。これが3,000万円になるのか4,000万円になるのか、ということでしょうが、それについて持続的に経営がやっていけるぎりぎり自立して経営がやっていけるかどうか計算してないということ、よろしかったでしょうか。

○近藤恭行市民経済部長

今の状況はこういう状況で、知多総合さんが出してもらえるのかどうかというのはいわかりませんし、そこら辺までありますので、今の状況でこの先経営がはかっているというシミュレーションまで出しておりません。

○新美保博委員

今年8,000万円だったと思うけど、これって5年間じゃなかった。1年8,000万円で、これで終わり。方向性っていうのか、シナリオはこのUFJの資料でいいや。これがいいなんて僕は全然思っていないけど、ただこれを受けて、半田市としてこの市場をどのように方向を付けていくのかという、例えば第3セクターで、変則第3セクターになる。半田市と知多総合でやっていく。何年やっていくのか。完全民営化するには何年後にするんだと。今までの短期借入金を長期借入金にして返していくよと。もちろんさっき言った利息も出てくる。何年にはこれだけ払わないといけないっていうのが出てくる。3年後に修繕工事をやるよと。3年後なのか4年後なのかわからないよと。だけどそこに決め打ちをすれば、数字を入れ込める。そうすると5年後には手が離れるよという計画はあるんじゃないの。

○近藤恭行市民経済部長

完全民営化については、知多総合さんともいろいろ話をしているんです。はっきりいつかというの、今この場で申し上げられませんが、最短でいけば例えば2年後。来年、再来年には受けていただけるという話になるかもしれませんし、遅くても4年か5年後にはなんとかできるといいなと。これはそこを目標として考えてますというまで、強い思いではありませんけど、少なくともそれくらいの期間でというふうに思っています。

○新美保博委員

これもやっぱり相手があることなんで、知多総合が受けてくれなきゃ、例えば知多総合じゃなくても他のところが手をあげてくれて、やりますと言ってくれば、こんないいことはないけど、でもたぶんそういうふうにはならないでしょう。ならないと言ったときに、2年であるなら、それは結構なこと。2年経って完全民営化になって、知多総合が受けてから、知多総合が単独で修繕なんてことは考えにくいよね。何らかのお手伝いをせざるを得ないと思うんだよね。そこまでもう少し煮詰めてもらいたい。どうしても2年なんてことは言わない。5年ってことも言わない。5年は長すぎるから、もっと縮めると。来年に

もそうなってほしいという気持ちはあるけれども、そう急いだところで、相手のあることだから、できないんだとするなら、なるべく短く。なんで短くって言っているかという、時間は別に長くたっていい。ある意味。要するに半田市のお金は出たくないわけ。これ以上1円も。正直言うと今までものすごくみんなに内緒で、内緒だよ、払っている出していると思う。普通で考えれば、こんなことあり得ないでしょ。内緒っていうのは、隠しているってことではなくて、他の事業と比べたら、こんなに裕福に、贅沢にお金が入ってくるなんて有り得ない。だから、もうお金は出さない。1銭も出さないんだというスタンスからいけば、そのシステムを作らないといけない。それが、こちらが作って知多総合にこれで納得できるかねという話を持っていかなければいけないやつが、持っていているかどうかというのがわからないわけ。だからそれをやらなきゃいけないというなら、なかなか今までの、一緒に歩んできた行政側の人からは言いにくいじゃない。だからこの委員会でこうしたらいんじゃないかってズバッと言った方がいい気がするからこの問題を取り上げたわけ。だから中川委員が言っている話はよくわかるよ。任せておけないから、やめれっていうのは、正論ではあるんだよ。だけど、やめれない。今すぐにはやめれないっていうなら、いかに上手に撤退をしていくかってことを考えてやらないといけない。それをやってみないとわからないでは、困る。キャッシュフローだとかいろんなことがわからないにしても、わかることは、これ以上税金はつぎ込みたくないなってこと、つぎ込みじゃいかなってことはわかる。そこの判断は、議会にしてくるわけでしょ。いいも悪いも、増資するけどどうだって言ったら、ここでつぶすわけにはいかないから、平成24年度はそういうこと。増資をオクケーするかってことになってくる。違う業界から見れば、なんであそこだけそんなことをするんだという言葉も出るし、8,000万円も余分になんで金を使うんだってことも出てくるわけ。でもやらなきゃいかんていうところのきっかけ作りにしたい。議会はこういうことを言っている、極端なこと言うと、つぶせと言っているというくらいのことは、言ってもらってもいい。だから短い間に方向をつけましょうってやってほしいという思いがあって、しゃべってるんだけど、やるべきだと思うけど、どうだね。やれないかね。

○近藤恭行市民経済部長

ありがとうございます。完全民営化に向かっていくのに、いろいろ話はしていますし、具体的にこういう方法があるよねっていうことも持っています。

○山本半治委員長

しばらく休憩します。

午前11時05分 休憩

午前11時28分 再開

○山本半治委員長

再開します。今後南部市場直接現場を見に行きたいと思っています。ですから、日程の調整をしたいと思っておりますので、皆様の予定を聞きたいと思っております。しばらく休憩します。

午前11時29分 休憩

午前11時33分 再開

○山本半治委員長

再開します。予定の確認をします。しばらく休憩します。

午前 11 時 34 分 休憩

午前 11 時 36 分 再開

○山本半治委員長

再開します。委員会の方向をみなさんで確認したいと思います。新美委員、もう 1 度代表して言っていただけますか。

○新美保博委員

この建設産業委員会は 2 つのテーマがあって、知多南部卸売市場のことについても、調査研究をするということなので、今までの知多南部卸売市場の経営状態っていうものを、ほんとにどうだったのかということ、調査研究する必要もあるということで、調査研究をしたい。それに加えて、建設産業委員会としてやろうということは、過去のことをほじくって、あれがいかんかった、これがいかんかったってやるよりも、これからどうしていくんだと。議会としてはこうしたらいいんじゃないかとか、こういうことをやったらいいんじゃないかということ、少しでも見だせて、提案ができたらいいなという方向で、これから調査研究をしていただくとありがたいなと思っています。

○山本半治委員長

ありがとうございます。みなさん、よろしいでしょうか。そうすると、さっき中川委員が言っていた、空き店舗の問題なんかは、どこかで確認だけしないといけないですね。なぜ空き店舗が埋まらなかったかってことも。

○新美保博委員

空き店舗がどこに、この地図ではなくて、現場行くんだから、現場を見てみて、この店舗じゃ使いにくいとか、きれいきたないとか、設備の問題もあるじゃない。そういうのも見てみて、例えば、こういう第 3 セクターでやっているところも少ないと思うんだけど、例えば他のところで、空き店舗みたいなのが、こういうふうに活用されたよとかいうところがあれば、見に行くことも必要だと思うし、当局が今考えているのが、第 1 に空き店舗の解消だと言っているわけだから、その解消策が議会として、議員として、こういうふうにしたら解消できるんじゃないかという提言もできればいい方向に進むかなと思っています。北部の有効利用も、売上として 1,000 万円あるのを捨ててまでやるなら、それに見合うものを探さないといけないし、それについてもアイデアとして何かあるならそれはやっぱりいろんなところで、いろんな人と話をして、こういうことやったらどうだっていう話もあるだろうから、それも委員会の中でとりまとめができるなら、そんないいことはないかなと思っています。そんな方向でどうでしょうか。

○山本半治委員長

どうでしょうか。よろしいですか。

【「はい」という声あり】

それでは、8 月 2 日、午前 6 時 45 分に中庭に集合して一緒に知多南部卸売市場の視察に行きたいと思いますので、よろしくお願ひします。その他に何かありましたらお願ひします。

【「なし」という声あり】

それでは、これで建設産業委員会を閉会します。ご苦勞様でした。

午前 11 時 40 分 閉会